

# 印鑑・デザイン物語 第2回

第2回目は平安時代から鎌倉、室町時代の歴史に戦国時代、武将の場で使用されていた印鑑についてです。

平安時代の後期になると花押(かおう)が登場します。鎌倉・室町時代はサインの時代でした。

「花押(かおう)」と呼ばれる各個人の一筆書きのような書き文字で所謂、現在のサインとよく似たもので、この時代は印章よりも重要視されていました。



その後、戦国時代には花押(サイン)に取って代って印鑑の使用頻度が増してきました。印鑑が変わった理由は戦争に明け暮れていたため辞令交付に便利であったことが挙げられます。



武田家は「龍の印」、上杉家は「獅子の印」、北条家は「虎の印」などや織田信長の「天下布武」の印章も有名です。天下統一への悲願が込められた印鑑です。

また、この当時の印鑑は知識人や知恵者の武将が印鑑を所持していることから印鑑の持つ霊力と自己の勇猛を引き出す神宝と信じられていました。それぞれの武将が競って印鑑や印判を作り、戦場に持って行ったことから印鑑の霊力発見、印鑑の福德と吉凶は戦国時代から始まったと言えます。



左:豊臣秀吉  
右:織田信長「天下布武」

天下統一を夢見る武将たちは、それぞれ独自の個性にみちた印章を用いるようになりました。鎧兜や旗印などと同じく、自ら用いる印鑑にも権威を強く押し出そうとしたのです。

混沌とした戦国の世の中を生き抜いた武将たちは、自身の権力や存在感をより一層強くアピールする1つの手段として、現代に通じる「ロゴ・シンボルマーク」を既にこの時代から使っていました。

## 起業カフェ vol.55 銀行活用術 「起業家、経営者の為の勉強会」

仕事とはお客様に喜んで頂くこと。売上を上げることではないのです。売上を上げることは仕事の結果に過ぎません。業績が上がらない?それはお客様に喜んでいただけてないから。つまり仕事をしていないからです。

世の多くの経営者が頭を悩ますことの一つに「資金繰り」があります。経営者が銀行さんに対して要望することは、「必要な時に貸して欲しい」です。今回の勉強会では主に次のことが学べます。

1. 銀行の意思決定の仕組みが手に取るように分かる
2. 銀行から楽に融資を引き出す方法が分かる
3. 銀行との具体的な交渉術が分かる
4. 事業計画書作成上の留意点分かる
5. 経営者と銀行が考えるメインバンクの違いが分かる

この勉強会に参加されると銀行融資決定の流れや考え方が手に取るようになります。併せて、銀行から良い情報を取得できるようになるかもしれません。

●主催・お申し込み●

日時:7月22日(水)10時-12時 会場:GGソーラービル  
参加費:4,000円(お弁当・お茶付) 定員:10名様  
※お問合せ、申し込みは弊社までご連絡ください。(完全予約制)

## 「起業家を成功させたい」

笑顔・コミュニケーション・感動

インプレス福岡株式会社 デザインはんこ

福岡市中央区赤坂1丁目11-13大稲ビル4階 〒810-0042

☒ info@design-hanko.com

月~金/9:00~18:00 土/10:00~18:00 定休日/日曜・祝日

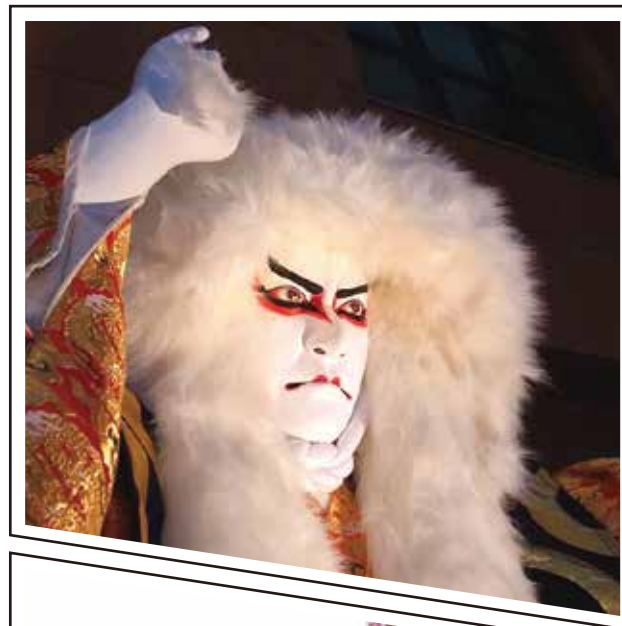
TEL:092-752-0888 FAX:092-752-0822

起業・独立をお考えの方はご相談ください。

# 起業をデザインする 2015.7/8月号

# IMPRESS

毎月発行情報レター



## 我が社の起業と苦労話し

### 第9回 有限会社シード設計社 代表 鶴 澄様

福岡で創業されて37年目を迎えられる建築設備基本計画や建築設備設計、監理をされている有限会社シード設計社 代表の鶴様にお話を伺いました。

#### Q. 建築設備設計とは具体的にはどういった内容のお仕事でしょうか？

建物の電気や空調の設備関係の設計のみを専門にした仕事です。九電工などは設備の施工会社ということになります。商業ビルや老人ホーム、保育園などの建築の基となる仕事でそれぞれの建築プランにあわせて設備の提案などを行っています。

施工会社の世界では、福岡の地場企業は勉強会や社員教育などがあまり充実しておらず、一企業として一定の力量（技術）がないところが多いようです。

超大型の商業ビルなど目玉事業は大手企業が仕事を押さえるため、それらの仕事に地場企業がなかなか取り組む機会がありません。もっと地場企業の技術力の底上げをしたいと思っています。

鶴様は長崎大学で化学を専攻され、その専門性を活かせる食品系の会社に新卒で入社されました。いつか社長になるという目標があり、大手企業よりも「この会社なら社長になれる」という見込みを感じて入社を決められたそうです。しかし、1年程でその会社の社長と喧嘩をして会社を辞められます。その後、父親から紹介された現在の仕事を始められます。「この世界は競争の世界だ」という父の一言に非常に心が動かされ、生まれ育った長崎から博多に出て来られました。鶴様が24歳の時でそれから建築設備設計一筋で仕事をすることになるのです。

目標としていた30歳で鶴設備設計事務所として独立起業、10年後に現在の有限会社シード設計社に社名を変更されました。

#### Q. 現在のお仕事の楽しい部分、やりがいを感じる部分は何ですか？また、同業他社との違いを教えてください。

共に仕事をする建築事務所や建主さんに頼っていただけることですね。また、間接的なお客様（お施主様など）にも喜んでいただけるところもやはり大きなやりがいの一つです。例えば、設計の図面を描く段階でチョイスする商材について、建築事務所と意見が食い違いスムーズに打合せが進まなくてもエンドユーザーの方が実際に使用することを考えると、やはり自分の意見を押し通しても最適なものを選ばなければなりません。（中略）建築設備設計の業界は昔からスーツを着て硬いイメージがありますが、私の会社では見ていただいたとおりの服装もスーツでなくラフな格好です。



私が過去に円形脱毛症になったことがきっかけで帽子をかぶり始めました。帽子をかぶることでお客様にも覚えてもらえ、見た目にもラフに仕事をしています。社員にも帽子をかぶる方が格好いいとも言われて私のトレードマークになっています。

#### Q. 今後の展開、目標を教えてください。

社員と一緒に楽しく仕事をしたいと思っています。仮に徹夜の仕事をすることになっても、楽しく徹夜できる職場でありたいと思います。利益ではなく楽しさを優先させるのでは、経営者としては失格かもしれません。しかし、なんと言っても社員が楽しいと思ってくれる職場環境で仕事をしていきたいと思っています。

#### 詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

**S** シード設計社 その先の環境へ。

事業内容：建築設備基本計画、建築設備設計・監理

設立：昭和62年12月

住所：福岡市中央区天神2丁目3番10号  
天神パインクレスト725号

TEL：092-751-3771



『社長、そのデザインでは売れません!』

川島蓉子著  
¥1,600 (日経BP社)



「ダサイ社長」＝「デザインをマネジメントできない経営者」

「デザイン」って皆様にとってどんなものでしょうか？

世の中にモノやサービスが溢れて、それらの価値がほぼなくなった現在でも経営者は世のため、人のためになる価値ある商品を提供し続けなければなりません。

それらを考えるのに第一に必要なもの、それが「デザイン」なのです。

デザインとは、価値観、スタイル。

デザインとは、ビジョンをかたちにすること。

デザインとは、経営方針を具現化した象徴みたいなもの。

デザインとは、市場で生き残る上でもっとも重要な価値。

経営にいちばん大事なのが「デザイン」であり、「デザイン」とは顧客が求める価値すべてなのです。普段、デザインについてあまり意識されたことのない経営者の方は、これを機会にデザインを基に経営全体を見直されるのもいいかもしれません。